

## 教育学研究科教員業績一覧

(2006年10月1日～2007年9月30日)

### 教育学コース

今井康雄(教授)

#### <編著書(共編著)>

*Concepts of Aesthetic Education. Japanese and European Perspective*, Münster: Waxmann, 2007年1月  
(Christoph Wulfとの共編著).

#### <論文(単著)>

Ein Kosmopolit hinter nationalsozialistischem Gitter?  
Zum pädagogischen Widerstand Adolf Reichweins,  
in: Kimura, N. / Moser von Filseck, K. (Hrsg.):  
*Universalitätsanspruch und partikuläre Wirklichkeit.  
Natur- und Geisteswissenschaft im Dialog*, Würzburg:  
Königshausen/Neumann, 2007年2月, S.209-216.

Mobiltelefon und die Jugendlichen in Japan. Eine  
Fallstudie zur bildungstheoretischen Betrachtung  
neuer Medien, in: Wulf, Ch./ Zirfas, J. (Hrsg.):  
*Pädagogik des Performativen. Theorien, Methoden,  
Perspektiven*, Weinheim/Basel: Beltz, 2007年2月,  
S.72-79.

川本隆史(教授)

#### <著書>

- ・『シンポジウム報告論集 ケアと自己決定』(熊野純彦, 立岩真也, 清水哲郎氏ほかとの共著, 発行=東京大学大学院人文社会系研究科21世紀 COE プログラム生命の文化・価値をめぐる「死生学」の構築, 2006年11月, 総頁数84)
- ・『現代倫理学事典』(井上達夫, 大庭健, 加藤尚武, 神崎繁, 塩野谷祐一, 成田和信氏との共同編集, 弘文堂, 2006年12月, 総頁数 xxviii+1075)

#### <論文(単著)>

- ・「生きることと学ぶこと——哲学研究と教育研究の《つなぎ目》」, 『教育哲学研究』第95号, 教育哲学会, 2007年, 1～7ページ。
- ・「経験・抵抗・理性——三人の《どう生きるか》に学ぶ」, 『慶應義塾大学教職課程センター年報』第16号, 2007年, 67～80ページ。

#### <講演および報告>

- ・「倫理・公民・シティズンシップ——哲学研究と教

育研究のいくつかの《つなぎ目》」(教育哲学会第49回大会 研究討議●哲学研究と教育研究——その乖離と邂逅, 東京大学赤門総合研究棟, 2006年10月14日)

- ・「公民科教育・市民性の教育・法教育——「法と倫理をつなぐもの」をめぐるパーソナルな覚え書」(法教育推進協議会第11回, 法曹会館, 2006年10月30日)
- ・「共生ということ——日常生活における日本人の生命観の一側面」(日韓人文政策懇談会第3回, 京都リサーチパーク, 2006年11月25日)

谷本宗生(助教)

#### <著書:共著>

「東京大学史史料室」小川千代子他『アーカイブを学ぶ』岩田書院, 2007年3月, 65～72頁。

#### <雑誌論文>

- 「第四高等学校から金沢大学へ, 地域の文化シンボル」金沢大学資料館・金沢大学附属図書館『四高開学120周年記念展示 学都金沢と第四高等学校の軌跡』2006年10月, 2～3頁。
- 「東京大学史像の検証を続けて—学内の銅像等金属回収について—」東京大学史史料室『史料室ニュース』第37号, 2006年11月, 4～7頁。
- 「1969年以降の神戸大学改革案をとおして—大学の自己点検評価の歴史的調査及び研究—」東京大学史史料室『史料室ニュース』第38号, 2007年3月, 5～6頁。
- 「東京大学史史料室と中野実の活動について」慶應義塾福沢研究センター『近代日本研究』第23巻, 2007年3月, 113～129頁。

#### <資料目録>

『古在由直史料目録』(東京大学史史料室員と協同) 2007年3月。

#### <校閲>

「東京大学旧職員インタビュー 内田祥三談話速記録(七)」(中野実・藤井恵介・角田真弓と共同)『東京大学史紀要』第25号, 2007年3月, 41～84頁。

#### <発表>

「四高開学120周年記念 学都シンポジウム」(パネリスト), かなざわ・まち博2006開催委員会, 2006年10月。

#### 比較教育社会学コース

荻谷剛彦(教授)

##### <共著>

『欲ばり過ぎるニッポンの教育』(増田ユリヤと共著), 講談社現代新書, 講談社, 2006年11月

##### <論文>

「“抱き合わせ”改正にどう対処するか」, 辻井喬; 藤田英典; 喜多明人編『なぜ変える? 教育基本法』, 岩波書店, 2006年10月

「『学習資本主義』社会と教育改革——「自ら学ぶ力」の格差問題」(日本教育心理学会第48回総会-準備委員会企画特別講演), 『教育心理学年報』, 46, 2006年

「『機会均等』教育の変貌(特集 続・次世代の世界秩序と日本)」, 『アステイオン』, 65, 2006年

「人口と教育の未来-少子高齢化とパーヘッドの思想」, 『環』, 26, 藤原書店, 2006年

「受験のレベルも授業のレベルも上げられない 最後につけがまわるのは誰か」, 『中央公論』, 122(2) (通号 1474), 2007年2月

「『学習資本主義』と教育格差 —社会政策としての教育政策」, 荻谷剛彦, 『格差社会への視座 —貧困と教育機会—(社会政策学会誌第17号)」, 社会政策学会, 2007年3月

「大学から職業へⅢ その1」, 荻谷剛彦; 平沢和司; 本田由紀; 中村高康, 小山治, 『東京大学大学院教育学研究科紀要』第46巻, 2007.3

「大学から職業へⅢ その2」, 堀健志; 濱中義隆; 大島真夫; 荻谷剛彦, 『東京大学大学院教育学研究科紀要』第46巻, 2007.3

##### <新聞>

「教える力 自信回復へ 公立校の支援急務 教育ルネサンスフォーラム 義務教育改革シンポジウム」(コーディネーター), 『読売新聞』, 2006年12月1日

「共通の基礎が必要(憲法の焦点10)」, 『秋田さきがけ』, 2007年2月5日

「親の経済格差再生産(憲法の焦点)」, 『中國新聞』, 2007年2月8日

##### <座談会>

「毎日フォーラム政策座談会 何をどう変える?」教

育再生へ」, 北条 恪太郎; 田村 哲夫; 荻谷 剛彦, 『毎日フォーラム』, 2007年1月

「第2弾 教科書匿名座談会 検定は役に立っていますか——荻谷剛彦 東京大学教授×現役公立中学校教員×教科書会社編集部長×副教材会社編集長」, 荻谷 剛彦 他, 『論座』, 140, 2007年1月

白石 さ や(教授)

##### <論文・著書>

「キャラクターを売る・キャラクターで売る」, 『文化としてのテレビ・コマーシャル』, 山田奨治編, 世界思想社, 2007.3

「東アジア大衆文化ネットワークと日韓文化交流」, 『日韓共同研究叢書20 東アジアの中の日韓交流』, 濱下武志・崔章集編, 慶應義塾大学出版会, 2007.3

##### <会議報告>

「Bapak(父)とIbu(母)の誕生: インドネシア語と国民文化」, 『インドネシアの国語政策と言語状況の変化』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト第二回研究会, 2006.10

「マンガ・アニメの海外における受容過程の概要」外務省海外交流審議会第七回総会におけるプレゼンテーション, 2007.2.20

「21世紀の東アジア地域における緩やかな文化共同体を考える」, 日本国際文化学会・日本公益学会・合同研究会シンポジウム『東アジア地域意識を考える——地域主義の可能性——』於日本大学, 2007.3.10

「マスメディアと市民社会」, 『インドネシア大学日本研究センター支援計画第3フェーズ』, 独立行政法人国際協力機構, 2007.3-4

##### <その他>

国際協力機構(JICA)短期派遣専門家としてインドネシア大学日本研究センターの研究プロジェクト指導

外務省海外交流審議会委員, 同ポップカルチャー専門部会委員, 同国際漫画賞実行委員会委員および同アニメ文化大使諮問委員会委員

恒吉 僚子(教授)

##### <論文>

“L'esprit de groupe et l'école japonaise.” pp.137-155 in *Enseignants et Écoles au Japn: Acteurs, système*

*et contexte*, edited by Claude Lévi Alvarès et Manabu Sato, Paris: Maisonneuve & Larose, 2007.

“Internal Internationalization and the Emerging Multicultural Outlook in Japan: The Impact of the New Foreigners.” 国際学術研究会論文集, 2006, pp.38-58, 中華民国課程興教学学会。

藤田慶子・秋田喜代美・恒吉僚子・村瀬公胤「中等教育一貫校における生徒および保護者の学習環境に関する意識調査」, 基礎学力研究開発センター Vol. 23, 2006.

“Teacher’s Perception of the ‘New’ Views of Ability in Japan: Preliminary Thoughts from a Center Project,” 第5回国際シンポジウム報告書, The Future of the East Asian Model of Academic Competence: The Emerging Vision of Post-Examination Societies, 基礎学力研究開発センター, pp.77-88.

*An International Comparison of Views of Education in Japan, the United States, China and Singapore: A Video Interview Analysis*(国際プロジェクト, COE 報告書), 基礎学力研究開発センター。

#### <学術発表>

2006年12月 “Internal Internationalization and the Emerging Multicultural Outlook in Japan: The Impact of the New Foreigners.” 中華民国課程興教学学会第十五回(国立台南大学)。

2007年5月 Kiyomi Akita & Ryoko Tsuneyoshi, “Japanese Teachers’ Pedagogical Reasoning and Beliefs by A Comparison Study of Singaporean, Chinese and Japanese Lessons.” Singapore, NIE。(発表, 秋田)

2007年6月 「日中小学校教師の授業に対する相互イメージシンガポール, アメリカとの対比を通じて」(代玉, 恒吉)異文化間教育学会第28回大会, 東京。(発表, 代玉)

本田由紀(准教授)

#### <編著書>

本田由紀・平沢和司(編著)『リーディングス 日本の教育と社会② 学歴社会・受験競争』日本図書センター pp.391. 2007.2

#### <分担執筆>

『「ニート」に必要なのは意識啓発よりもチャンス。労働市場の変革を急げ』文藝春秋編『日本の論点』文藝春秋 2006.11

#### <雑誌論文>

‘The Transformation of the Youth Labor Market and the Reemergence of the Issue of Educational Credentials’, *Social Science Japan*, No.35 2006.10

「〈やりがい〉の搾取」『世界』(3月号) 2007.2

「苛烈化する『平成学歴社会』」『論座』(3月号) 2007.2

#### <コラムなど>

「『家庭の教育力』のまやかし」『朝日新聞』2007年1月16日付夕刊

「教育再生会議を批判する」『朝日新聞』2007年1月29日付朝刊「時流自論」欄

「企業の『家族依存』を正せ」『朝日新聞』2007年2月19日付朝刊「時流自論」欄

「国家を情緒の対象とみなす危険な営み」『週刊朝日』2007年3月16日号

「いま, 若い人たちへ」『朝日新聞』2007年3月26日付朝刊「時流自論」欄

#### <講演・シンポジウムなど>

「『ニート』, フリーターってどうよ?」(戦争と治安管理に反対する PINCH 主催集会における講演) 2006年10月3日

「働きたい若者たち—学校と職場の狭間で—」(一橋大学経済研究会主催シンポジウムにおけるパネリスト) 2006年11月5日

「『若者と仕事』を考えるシンポジウム」(大阪市主催シンポジウムにおける基調講演) 2006年11月19日

「『〈ニート〉って言うな』—格差社会日本の今と将来を考える」(大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター主催シンポジウムにおけるパネリスト) 2006年12月9日

「『人間力』って言うな!」(大佛次郎論壇賞奨励賞受賞記念講演会) 2007年1月20日

「『コミュニケーション能力—何が問題なのか』」(人文・社会科学振興のためのプロジェクト「日本の教育システム」(座長: 苅谷剛彦)主催シンポジウム指定討論者) 2007年3月11日

大多和直樹(助教)

#### <著書>

「自主性尊重型学校と伝統的指導型学校—学校存立メカニズムの観点から」(第七章第4節)酒井朗編著(2007)『進学支援の教育臨床社会学—商業高校におけるアクションリサーチ』

#### <報告書>

「生徒文化と社会観」『JELS 報告書』(お茶の水大学 COE 誕生から死までの人間発達科学)No.8

<学会発表>

「シンポジウム:格差社会と犯罪研究 教育社会学の立場から」日本犯罪社会学会第33回大会  
西森年寿・大多和直樹・望月俊男・中原淳・岡本和夫・山内祐平「高等教育におけるオンライン授業 カタログシステムの設計」日本教育工学会第22回全国大会

西 島 央(助教)

<編著書>

・西島央編著 『部活動—その現状とこれからのあり方—』 学事出版, 176頁, 2006年11月。(西島央・藤田武志・矢野博之・羽田野慶子・中澤篤史・宮本幸子による共著。)

<論文>

・「静岡県の高校部活動における制度的変化と『活動加入状況』に関する教育社会学的考察—学習指導要領改訂前後の比較調査をもとに—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第46巻, 2007年3月, 99-120頁。(西島央・中澤篤史による共著。分担執筆部分:「I はじめに」, 「II 調査の概要と調査対象校・対象者の特徴」「III 問題の所在～部活動をめぐる制度的・社会的変化と静岡県の取り組み」, 「IV 部活動・学校外活動への加入状況とその変化」, 「VI おわりに」。)

<その他>

・「アンケート調査からみる私立中学生の意識と行動 (10)～職業における成功見通し」『私学中等教育』第120号, (株)森上教育研究所, 2006年12月, 10頁。  
・「アンケート調査からみる私立中学生の意識と行動 (11)～成績に左右される職業観」『私学中等教育』第121号, (株)森上教育研究所, 2007年1月, 26頁。  
・『研究所報 vol.39 第4回学習基本調査・国内調査報告書 中学生版』学習基本調査研究会, 研究代表者: 耳塚寛明, Benesse 教育研究開発センター, 2007年3月。(分担部分:「第1章 学習基本調査の結果からみえること」, 「第2章第2節2. 学習していて感じること」, 「第2章第2節3. 学習上での悩み」, 「第2章第2節7. 心や体の疲れ」。)  
・『研究所報 vol.40 第4回学習基本調査・国内調査報告書 高校生版』学習基本調査研究会, 研究代表者: 耳塚寛明, Benesse 教育研究開発センター, 2007年3月。(分担部分:「第2章第2節2. 学習

していて感じること」, 「第2章第2節3. 学習上での悩み」, 「第2章第2節7. 心や体の疲れ」。)

・「部活動の現状とゆくえ ①部活動のあり方・指導のしかた」『担任の知恵袋 HR 月間ホームルーム』2007年4月号, 学事出版, 44-45頁, 2007年4月。  
・「部活動の現状とゆくえ ③部活動改革に対する中学生の意見」『担任の知恵袋 HR 月間ホームルーム』2007年6月号, 学事出版, 44-45頁, 2007年6月。  
・「総合学科の“選択”を問う—『やりたい仕事』の変化からみる総合学科高校生の選択行動—」『担任の知恵袋 HR 月間ホームルーム』2007年7月号, 学事出版, 60-67頁, 2007年7月。(平木耕平, 井上円佳, 西島央による共著。分担部分:「はじめに」)

<学会発表>

・「学校文書に見る昭和10年代の音楽教育の諸相—長野県内の地域間比較を通して—」(ポスター発表) 日本音楽教育学会第37回大会, 於千葉大学, 2006年10月28日。(西島央, 今川恭子, 佐藤香織, 藤井康之, 藤波ゆかり, 本多佐保美による共同発表。)

<社会貢献活動>

・日本教育社会学会 事務局庶務部副部長 総務担当 (理事制度等改革に関する検討のためのWG), 2005年9月～2007年9月。  
・「Do Music!～音と物語～」於私立聖徳学園中学校, 2006年12月2日。(非常勤講師で担当している東京芸術大学音楽学部「教育方法学」受講生有志によるアウトリーチ活動。)

両 角 亜希子(助教)

<論文>

両角亜希子「高等教育費負担の国際比較」民主教育協会『IDE 現代の高等教育』(特集: 高等教育の費用負担)2007年7月 492号 42-47頁  
両角亜希子「財務から見た地方・中小規模大学」日本私立学校振興・共済事業団『月報私学』2007年8月 116号 6-7頁

<報告書その他>

日本私立学校振興・共済事業団『平成18年度 文部科学省委託研究報告 大学経営強化調査研究 大学経営強化の事例集—大学経営を成功に導くために—』2007年3月(大学経営強化調査研究委託事業 専門家委員として一部執筆)  
片山英治・小林雅之・両角亜希子「わが国の大学の財務基盤強化に向けて—研究序説—」東大-野村

大学経営ディスカッションペーパー No.01, 2007年3月

東京大学『平成18年度 先導的・大学改革推進委託業務成果報告書 高等教育のファンディング・システムの国際比較に関する調査研究』2007年5月(研究代表者として編著)

<学会発表>

両角亜希子「私立大学における施設整備とその資金調達—第2号基本金を再考する—」日本高等教育学会第10回大会(2007年5月26日 名古屋大学)

教育心理学コース

市川伸一(教授)

<著書>

『自ら学びを高める子を育てる「教えて考えさせる授業」—横浜本町小の挑戦—』明治図書, 2006(監修および「第1章 教えて考えさせる授業とは」を分担執筆)

『教えて考えさせる授業 小学校—学力向上と理解深化をめざす指導プラン—』図書文化社, 2007(市川伸一・鍋木良夫編著, 「第1章 なぜ「教えて考えさせる授業」なのか」を分担執筆)

<一般雑誌論文>

「実践的な『学習動機の二要因モデル』理論とその誕生まで」『CREO』(神鋼ヒューマンクリエイト), 2006, No.18-1, Pp.51-60. (インタビュー記事)

「こんな授業をやってみよう」『数学文化』(日本評論社), 2006, No.007, Pp.57-84.(パネル討論記録)

「わからない生徒たちへの学習相談—日常モードから学問モードにどう移行するか—」『科学』(岩波書店), 2007, No.77-1. Pp.48-49.(インタビュー記事)

「学力低下の現状とその解決策」『教職課程』(協同出版), 2007, Vol.33, No.4, Pp.32-35.

「『確かな学力』の育成をどう図るか—習得と探究を促す新教育課程に向けて—」『中等教育資料』(ぎょうせい), No.851, Pp.10-13.

「地域教育の現状と展開」『教職課程』(協同出版), 2007, Vol.33, No.6, Pp.14-17.

「『PISA型学力』とは、どのような学力を指すのか?」『総合教育技術』(小学館), 2007, Vol.62, No.2, Pp.68-71. (インタビュー記事)

南風原 朝 和(教授)

<論文>

「テストの評価—テストの質の維持と向上のために」『人事試験研究』第202号, 2-7頁, 2007年3月

<学会発表>

「階層モデルによる個人内共変関係へのアプローチ」(シンポジウム『因果をとらえる新しい統計的方法とは—階層モデル, 傾向スコア, 構造方程式モデリング』における話題提供)日本心理学会第70回大会, 2006年11月

遠藤利彦(准教授)

<著書>

遠藤利彦(2006). 感情. 海保博之・楠見孝監修, 心理学総合事典(pp.304-334). 朝倉書店.

遠藤利彦(2006). 質的研究と語りをめぐるいくつかの雑感. 能智正博編, 語りと出会う: 質的研究の新たな展開に向けて(pp.191-235). ミネルヴァ書房.

遠藤利彦(2007). 臨床心理学の基礎: 発達(pp.33-47). 桑原知子編, 朝倉心理学講座: 臨床心理学. 朝倉書店.

<学術論文>

遠藤利彦(2006). 構造方程式モデリングを賢く使うということ. パーソナリティ研究, 15, 124-128.

遠藤利彦(2007). 語りにおける自己と他者, そして時間: アダルト・アタッチメント・インタビューから逆照射して見る心理学における語りの特質. 心理学評論, 49, 470-491.

<一般雑誌論文>

遠藤利彦(2006). 正当な怒りの発達. 児童心理, 847, 17-22.

遠藤利彦(2006). 視線理解の特集に寄せて: 学際という名の正統. 発達, 107, 67-70.

遠藤利彦(2007). 語りから“見え”を探る: 知覚心理学における質的研究. 質的心理学研究, 6, 200-201.

<報告書>

遠藤利彦・北川恵・本島優子(2007). 妊娠期における母親の子ども表象が生後1年目の母子相互作用および子どもの社会情緒的発達に及ぼす影響. 平成18年度児童関連サービス調査研究等事業報告書.

<学会発表>

遠藤利彦 シンポジウム 違和感を心理学する—対人情報処理過程における違和感とその脳内基盤—

- (企画・司会). 日本心理学会第70回大会. 2006年11月3～5日.
- 遠藤利彦 ワークショップ 成人アタッチメント研究の最前線(3)(指定討論). 日本心理学会第70回大会. 2006年11月3～5日.
- 遠藤利彦 ワークショップ 心理臨床の基礎を求めて その3): ストレス心理学, 社会情動発達心理学, 行動主義の心理学(話題提供). 日本心理学会第70回大会. 2006年11月3～5日.
- 本島優子・遠藤利彦 母親の子どもに関する心的表象と乳児表情の知覚との関連性. 日本心理学会第70回大会. 2006年11月3～5日.
- 篠原郁子・遠藤利彦 母親の mind-mindedness と18ヶ月児の共同注意行動の関連—始発的・応答的な注意の共有行動に注目して—. 日本心理学会第70回大会. 2006年11月3～5日.
- 石井佑可子・遠藤利彦 社会的適応における「メタ・ソーシャルスキル」の中視眼的効果. 日本心理学会第70回大会. 2006年11月3～5日.
- 遠藤利彦 シンポジウム 愛着理論から母子と家族の臨床へ(話題提供). 日本乳幼児医学・心理学会第16回大会. 2006年11月11日.
- 遠藤利彦 シンポジウム 親子関係における養育者の特徴に迫る視点: Sensitivity, Emotional Availability, Mind-mindedness, Insightfulness の検討(司会・指定討論). 日本発達心理学会第18回大会. 2007年3月24～26日.
- 遠藤利彦 ラウンドテーブルディスカッション 大学院生と保育機関の連携による子どもの総合的発達支援体制の構築に向けて: 発達心理学徒の視点は保育に貢献できるのか(司会・指定討論). 日本発達心理学会第18回大会. 2007年3月24～26日.
- 小林信一・遠藤利彦 配偶者との死別経験を有する男性の展望の変化と適応. 日本発達心理学会第18回大会. 2007年3月24～26日.
- 石井佑可子・遠藤利彦 主体の特性要因に応じた社会的スキル行使戦略の検討. 日本発達心理学会第18回大会. 2007年3月24～26日.
- 本島優子・北川恵・遠藤利彦 妊娠期における母親の子どもに関する表象と生後の乳児表情の知覚との関連性. 日本発達心理学会第18回大会. 2007年3月24～26日.

針生悦子(准教授)

<論文>

佐藤賢輔・針生悦子 「幼児における助数詞の理解: 存在論的カテゴリーに注目して」 発達心理学研究, 17(3), 272-281. 2006年12月

<学会発表>

佐藤久美子・梶川祥世・坂本清恵・松本博文・今井むつみ・針生悦子 「7ヶ月, 9ヶ月児の文中の単語切り出しにおけるアクセントの役割」 日本音声学会2006年度(第20回)全国大会. 2006年10月1日

梶川祥世・針生悦子 「乳児における格助詞「が」の認知: 助詞は単語切り出しの手がかりとなりうるか」 針生悦子・梶川祥世(企画)シンポジウム「乳児はどのようにしてことばを聴きとるのか: 日本語における手がかりを探る」 日本発達心理学会第18回大会発表論文集, S13. 2007年3月24日

Imai, M., Haryu, E., Okada, H. & Kajikawa, S. Case-marking and argument-number dilemma in children learning an argument dropping language in inferring novel verb meanings. *Paper presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*. Boston, USA. 2007年3月29日

臨床心理学コース

亀口憲治(教授)

<著書: 共著・編著>

臨床心理行為研究セミナー(編著)2006.10 至文堂  
岡田康伸・河合俊夫・桑原和子(共編)心理臨床における個と集団 2007.3 創元社

<論文: 単著>

家族の力を支える社会のあり方 2007.2 家族看護—第5巻, 18-23

<論文: 共著>

家族イメージ法(FIT)を用いた質的研究法の開発—2007.3 東京大学大学院教育学研究科紀要 第46巻, 227-238

心理臨床における「見立て」に関する考察 2007.3 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要 第30集, 59-102

<その他>

心理臨床との出会い 2007.3 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要 第30集, 183-184

下山晴彦(教授)

<編集>

「特集 精神療法・心理療法の統合」精神療法33(1)  
pp.3-62 2007

<論文>

「初回面接では何をするのか(2)：心理機能の障害として精神症状を把握する」臨床心理学 6 (5)pp.658-664 2006

「初回面接では何をするのか(3)：機能分析によって問題のメカニズムを明確化する」臨床心理学 6 (6) pp.798-806 2006

「引きこもり傾向を示す青少年のための心理教育プログラムの開発」明治安田こころの健康財団研究助成論文集41 pp.99-109 2006

「対人援助職の感情労働とバーンアウト予防」臨床心理学 6 (5)pp.600-605 2006 小堀彩子と共著

「ナラティブと心理療法：心理療法は何処から来て何処に行くのか」臨床心理学 7 (1)pp.89-96 2007

「精神療法・心理療法の統合の意義」精神療法33(1) pp.3-5 2007

<訳書>

「テキスト臨床心理学 3 - 不安と身体関連障害」誠信書房 pp.227 (Davison, G. C. Neale, J. M. & Kring, A. M. 2004 Abnormal Psychology 9<sup>th</sup> John Wiley & Sons) 2006

「テキスト臨床心理学 5 - ライフサイクルの心理障害」誠信書房 pp.268 (Davison, G. C. Neale, J. M. & Kring, A. M. 2004 Abnormal Psychology 9<sup>th</sup> John Wiley & Sons) 2007

「物語りとしての心理療法 - ナラティブ・セラピーの魅力」誠信書房 pp.331 (McLeod, J. 1977 Narrative and Psychotherapy Sage Publications) 2007

「臨床実践のための質的研究法入門」金剛書房 pp.295 (McLeod, J. 2000 Qualitative Research in Counselling and Psychotherapy. Sage Publications) 2007

田中千穂子(教授)

<論文>

乳幼児のこころの問題 特集子どものこころの問題：最近の話題と多角的アプローチ 小児内科 vol.38. No1, 2006 pp.20-23

発達心理臨床のエビデンス 現代のエスプリ『臨床心理行為研究セミナー』10月号 至文堂 2006

pp.83-91

自分勝手ができるようになった親たち 児童心理11月号特集「自分勝手な親へのかかわり」2006年11月 pp.2~11 金子書房

<社会的活動>

・スーパーバイザーとして招聘

虐待防止センター・ケース検討会(2007, 3月)

板橋区教育相談所ケース検討会(2006, 11月)

世田谷区教育相談所(2006, 11月)

多摩精神保健センター事例検討会(2006, 11月, 2007, 3月)

国分寺市教育センター(2006, 10月, 11月, 2007, 1月)

川崎市総合教育センター事例検討会(2006, 11月, 2007, 2月)

相模原市教育センター事例検討会(2006, 11月)

江戸川区教育相談所事例検討会(2007, 1月)

朝日カウンセリングルーム事例検討会(2007, 2月)

落合保健所事例検討会(2006, 12月)

・講師依頼

大宮インリアル研究会(2006, 10月)

静岡臨床心理学会(2006, 10月)

日本遊戯療法学会ワークショップ(2006, 11月)

文京女子大学大学院(2007, 2月)

中釜洋子(准教授)

<著書>

平木典子との共著 『家族の心理—家族への理解を深めるために』サインス社 2006年10月

<論文>

「家族のための心理援助—6. 家族合同面接を開始する」臨床心理学 vol.7, no.2. p.235-241 金剛出版 2007年3月

「心理療法の統合の新しい動向—個人と家族の両方に焦点をあてる」精神療法 vol.33, no.1, p.30-39 金剛出版 2007年2月

「家族のための心理援助—5. ビリーフの視点から家族と関わる」臨床心理学 vol.7, no.1. p.67-73 金剛出版 2007年1月

「家族のための心理援助—4. 文脈の視点から家族と関わる」臨床心理学 vol.6, no.6 p.807-813. 金剛出版 2006年11月

成田じゅんとの共著 「嫌なことを忘れて生きる少年と感情を押し殺して頑張り続ける母の事例」家裁調査官研究紀要 4号 裁判所職員総合研修所 p.48-79 2006年10月

## &lt;講演会記録&gt;

「第一回フォーラム記録 母娘関係を考える—思春期の娘と思秋期の母が紡ぐ物語が、よりハッピーになるために」 学習院女子中等科・高等科・戸山会 p.15-23 2007年3月

## &lt;雑誌論文等&gt;

大日向雅美・坂井聖二・中川信子・伊藤美佳との共著 『子育て支援者のためのカウンセリングマインド読本—福祉と教育の枠をこえて』 子育て支援者のためのカウンセリングマインド普及事業事業委員会 p.192 2007年2月

大西真美・中釜洋子 「海外文献紹介 Johnson, S. M. 『カップルのための感情焦点化療法(EFT)を学ぶ：カップルの絆を育む』」 家族療法研究 vol.23. No.3 p.258-261 2006年12月

誌上コンサルテーション 「症状に対する意味づけが来談者間の相互作用に与える影響について」 コメント 家族療法研究 vol.23. no.2. p.155-156 2006年8月

「平子論文を読んで」 上智大学臨床心理学研究 2006年 vol.29 p.166-168 2007年1月

能智正博(准教授)

## &lt;著書&gt;

能智正博(編) 2006 『〈語り〉と出会う—質的研究の新たな展開に向けて』 ミネルヴァ書房

能智正博 2006 「語り」と「ナラティブ」のあいだ (能智正博編)『〈語り〉と出会う—質的研究の新たな展開に向けて』(pp.11-72) ミネルヴァ書房

## &lt;雑誌論文&gt;

能智正博 2006 「語りの空間」を通して見えてくるもの—徳田論文へのコメント— 心理学評論, 49, 511-514.

能智正博 2006 質的データの分析—物語の構成という視点から 日本保健医療行動科学会年報, 21, 49-62.

## &lt;その他出版物&gt;

能智正博 2007 ナラティブと〈現実〉 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 30, 190-191.

能智正博 2007 書評『「ほんとうの自分」の現象学』(山竹伸二著, NHK ブックス)アジア太平洋研究センター年報, 4, p.18.

## &lt;学会発表等&gt;

能智正博 2007 3月 ナラティブの視点と“リハ

ビリテーション・カウンセリング” 特別公開シンポジウム「心理療法におけるエビデンスとナラティブ」(サトウタツヤ企画, McLeod, J., 下山晴彦, 松見淳子, 武藤崇, 能智正博)京都

田垣正晋・安田裕子・家島明彦・能智正博 2007 3月 シンポジウム：質的研究の学び方—質的心理学の方法論(4) 日本発達心理学会第18回大会, 大宮

高橋恵子・柏木恵子・内田伸子・能智正博・無藤隆・松沢哲郎 2006 11月 ワークショップ：心と発話の間—質的データの検討 日本心理学会第70回大会, 福岡

能智正博 2006 10月 語りと質的研究 日本音楽療法懇話会 第239回, 東京

## 教育創発学コース

秋田喜代美(教授)

## &lt;著書：共編著&gt;

森敏昭・秋田喜代美(編)『教育心理学キーワード』有斐閣 302p. 2006年10月

柘植雅義・秋田喜代美・納富恵子・佐藤紘昭(編)『中学・高校におけるLD・ADHD・高機能自閉症等の指導：自立をめざす生徒の学習・メンタル・進路指導』東洋館出版 321p. 2007年1月

秋田喜代美・西山薫・菱田隆昭(編)『今を生きる保育者論』みらい 199p. 2007年3月

## &lt;著書：分担執筆&gt;

「幼稚園教師の資質向上と自己評価」(財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構(編)『私立幼稚園の自己評価と解説：新しい時代の幼稚園教育創造をめざして』フレーベル館 pp.6-10. 2006年10月

「子ども性が生かされ出会う場所」「公開研究発表会指導講評録」お茶の水女子大学附属幼稚園(編)『時の標 お茶の水女子大学附属幼稚園創立130年記念論文集』フレーベル館 pp.74, pp.90-95. 2006年11月.

「談話理解」「教室における談話」稲垣佳世子・大浦容子・鈴木宏昭(編)『新訂 認知過程研究—知識の獲得とその利用』放送大学教育振興会 pp.184-198, pp.199-216. 2007年3月

## &lt;学術論文&gt;

「授業研究の新たな動向：「実践化」の視点から」日本家庭科教育学会誌, 49(4), 249-255. 2007年1月

「保護者の満足度が高い学校における生徒の学習環境」(藤田慶子・秋田喜代美・恒吉僚子・村瀬公胤・



市川洋子) 東京大学大学院教育学研究科基礎学力研究開発センターワーキングペーパー, 22号, 2006年12月

「中等教育一貫校における生徒および保護者の学習環境に関する意識調査」(藤田慶子・秋田喜代美・恒吉僚子・村瀬公胤) 東京大学大学院教育学研究科基礎学力研究開発センターワーキングペーパー, 23号, 2006年12月

「授業のやりとりにおける学級差と記憶の関連—中学1年生の国語科一斉授業場面の分析」(市川洋子・秋田喜代美・村瀬公胤) 東京大学大学院教育学研究科基礎学力研究開発センターワーキングペーパー, 23, 2007年3月

「一斉場面における生徒と教師の意図のズレ場面での修正過程—教師のフィードバックが十分に機能しない場面の分析」(市川洋子・秋田喜代美・村瀬公胤) 東京大学大学院教育学研究科基礎学力研究開発センターワーキングペーパー, 23, 2007年3月

#### <雑誌論文>

「読む経験の連続性を保証する授業へ」『教育科学国語教育』675, 11-13, 2006年11月

「新しい時代の教師に向けたメッセージ」『書齋の窓』, 560, 58-61, 2006年11月

「保・幼・小の連携のポイント」『Nocco』3(1), 13, 2007年1月

「子どもを元気にする環境づくり：文化的活動のコミュニティづくりへ」『学術の動向』12(1), 41-43, 2007年1月

「これからの幼小連携—希望と新たな挑戦への課題」東京都国立幼稚園長会会報, 113, 203, 2007年3月

#### <学会発表等>

「絵本を通した子どもの発見と絆の形成」日本赤ちゃん学会第3回シンポジウム抄録「絵本で育つところ」pp.25 話題提供者 2006年11月

「メンタリングによる新たな保育者養成の可能性を探る：保育者の専門的力量形成に向けて」日本発達心理学会シンポジウム指定討論者 pp.142 2007年3月

「現場が語る実践：ビデオ映像がもたらす対話的機能」日本発達心理学会シンポジウム指定討論者 pp.166, 2007年3月

Japanese Teachers' Learning Systems in School: Collaborative Knowledge Building through Lesson

Study, 2007 International Conference Competency-based educational reform, Seoul National University, pp355-378, 2007年3月.

#### <海外講演>

「今後の幼児教育の方向と課題」台湾幼児教育改革会議招待講演 台北師範大学 2007年10月

“Current Situation of Lesson Study in Japan” invited expert panel in World Association of Lesson Study, 香港教育学院 2007年11月

#### <講演ならびにシンポジウム, インタビュー記録>

「幼小中の連携で協働して学びを生み出す子どもを育てる」(秋田喜代美, 児島邦弘・耳塚寛明シンポジウム)『児童教育』17, 34-47, 2007年2月

「子どもの発達に即した読書コミュニティの形成に向けて」『生涯にわたる読書能力の形成に関する総合的研究』(平成16-18年度科学研究費基盤研究(B)16330161 研究代表者立田慶裕) pp161-172, 2007年3月

#### <科学研究費報告書>

「幼児期から児童期への教師の発達観の比較調査研究：ビデオ再生刺激法を用いて」(平成16-18年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1)16330149)最終報告書 研究代表者 秋田喜代美 194 p.) 2007年3月

#### <書評>

「いま求められる「読解力」とは」『児童心理』, 850, 141 2006年10月

#### <連載>

「教師の学びの特質にあった研修と免許更新制度の必要性」『週刊教育プロ』, 36(38), p30, 2006年10月

「台湾の幼児教育改革」『週刊教育プロ』36(43), 34, 2006年11月

「片づけの教育学」『週刊教育プロ』36(47), 30, 2006年12月

「日本の保育者が大事にする遊びと記録」『週刊教育プロ』37(3), 35, 2007年1月

「保育の質としての「風景」」『週刊教育プロ』37(7), 31, 2007年2月

「園の自己点検・自己評価」『週刊教育プロ』37(11), 31, 2007年3月

金森 修(教授)

#### <分担執筆>

「装甲するビオス」『身体をめぐるレッスン』第3巻,

岩波書店, 2007年1月30日, pp.3-26.

<参考論文・エッセイ>

「“エコロジーの文化政治学”から「平和」を紡ぐ」(綿貫礼子氏との対談) 『季刊 軍縮地球市民』No.6, Autumn 2006, 2006年10月1日, pp.33-45.

「心にのこる一冊：バシユラル『科学的精神の形成』」 『科学』vol.76, no.11, nov. 2006, 2006年11月1日, pp.1160-1161.

「遺伝的デザインの文化的制御」 山中浩司・額賀淑郎編『遺伝子研究と社会』, 昭和堂, 2007年2月28日, 第2章, pp.49-77.

<書評>

「人間を惑わす色の文化・産業史」『日本経済新聞』2006年12月10日

「2006年下半年読書アンケート」『図書新聞』第2803号, 2006年12月23日

「進化のリズム超脱する知識世界」『日本経済新聞』2007年1月21日

「2006年読書アンケート」『みすず』第546号, 2007年2月1日, pp.5-6.

「際どい議論を慎重に分析」『週刊読書人』第2675号, 2007年2月16日

<学会等発表・講演>

「自然主義と文化」京都文化会議2006, 第三回ワークショップ, 京都大学三才学林, 2006年10月8日

「ビオスの装甲的生命観」総合研究大学院大学ワークショップ, 京都ばるるプラザ, 2006年10月23日

「キャラハンの生命倫理」日本生命倫理学会第18回年次大会, 岡山大学, 2006年11月11日

「ビオスの本源的装甲」日本生命倫理学会第18回年次大会, 岡山大学, 2006年11月12日

“Bios et Bioethique” *Institut d’Histoire et de Philosophie des Sciences et des Techniques*, パリ, 2006年11月24日

“Rationalite scientifique et praxeologie orientale”, “La ‘Science wars’ et ses suites au Japon”, “Gouvernement culturel du ‘design’ genetique” *Centre Alexandre Koyre*, パリ, 2006年11月27日

「自然主義と文化による設計」『イノチのゆらぎとゆらめき』シンポジウム:「未来を拓く人文・社会科学」(独立行政法人日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業), サンケイプラザホール, 2007年3月9日

佐々木 正 人(教授)

<著書等>

エレノア・ギブソン著 『アフォーダンスの発見』(佐々木正人・高橋綾訳) 岩波書店 2006年

佐々木正人編 『アート／表現する身体—アフォーダンスの現場』 東京大学出版会』 2006年

エドワード・リード著 『伝記 ジェームス・ギブソン—知覚理論の革命』 佐々木正人監訳 柴田崇・高橋綾訳 勁草書房 2006年

佐々木正人編 シリーズヒトの科学4 『包まれるヒト』 2007年 岩波書店

<論文>

佐々木正人 アフォーダンス入門—若きロボット研究者とのQ & A ロボット学会誌 24巻7号 2006年10月 2—8

Tetsushi Nonaka, Miho Nishizaki & Masato Sasaki (2007) Dynamics of the act of drawing from life *Studies in Perception and Action* 41-45. LEA

Tomoki Ikeda & Masato Sasaki (2007) Quantitative research of microsclips in reaching movement *Studies in Perception and Action* 102-106. LEA

岡 田 猛(准教授)

<論文>

・ 縣拓充・岡田猛(2006)企画展「家族の肖像」における芸術家の制作プロセスの展示とその効果の検討 名古屋大学博物館報告, 22, 277-292.

<著書(分担執筆)>

・ 岡田猛(2006)美術の創作プロセス 大津由起雄・波多野諠余夫・三宅なほみ(編)認知科学への招待 2:心の研究の多様性を探る 129-147, 研究社

生涯学習基盤経営コース

根 本 彰(教授)

<雑誌論文>

「公立図書館における情報通信技術の活用」『月刊自治フォーラム』Vol. 568, Jan 2007, p.19-25.

<図書の一部>

「図書館の思想：国立国会図書館と政府情報へのアクセス」『明日の図書館情報学を拓く：アーカイブズと図書館経営』樹村房 2007.03 p.90-110.

「図書館」加藤友康責任編集『歴史学事典 第14巻 ものとわざ』弘文堂 2007.06

<講演・シンポジウム>

「学校教育の中核」としての学校図書館の在り方を

探る」(田中孝一らと)『今日の学校図書館(第35回全国学校図書館研究大会(郡山大会)研究集録』同事務局発行 2006年12月 p.133-136.

「地域資料サービスの新しい段階：情報提供と情報保存を考える」『全国図書館大会記録(第92回岡山大会)』同事務局刊 2007年3月 p.224-228.

#### <その他>

「いわきの総合型図書館に期待する(1)図書館の新しいイメージ」『いわき民報』2006年10月12日

「いわきの総合型図書館に期待する(2)教育文化と図書館」『いわき民報』2006年10月13日

「いわきの総合型図書館に期待する(3)豊田市立図書館と名護市立図書館」『いわき民報』2006年10月14日

「いわきの総合型図書館に期待する(4)出版文化と図書館」『いわき民報』2006年10月16日

「いわきの総合型図書館に期待する(5)ソウルから」『いわき民報』2006年10月17日

「いわきの総合型図書館に期待する(6)青森の図書館を訪れて」『いわき民報』2006年10月18日

「いわきの総合型図書館に期待する(7)いわきの図書館に注文する」『いわき民報』2006年10月19日

牧野 篤(教授)

#### <論文(単著・日本語)>

「高齢者教育の課題と老人大学のあり方に関する一考察—福祉と教育のはざままで—」, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属生涯学習・キャリア教育研究センター『生涯学習・キャリア教育研究』第3号, 2007年3月, pp.19-38

「ねじれた近代と情念としてのナショナリズム」, 教育史学会編『教育史研究の最前線』, 日本図書センター, 2007年3月, pp.41-46

「花も実もある人生を—シニアが社会の主役となるために—」, あいち生涯学習 NPO 委員会『平成18年度文部科学省生涯学習分野における NPO 支援事業「ニューライフ NPO セミナー」報告書』, pp.1-9

「大学は知の論理で社会と結ばれる—市民への授業公開プログラム(2005年度前期・2006年度前期)アンケート報告—」, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属生涯学習・キャリア教育研究センター『モノグラフ・調査研究報告書』No.5, 2006年10月, 2007年3月, pp.1-14

#### <論文(単著・中国語)>

「東亜少子高齢社会和終身学習の任務」, 中華民国成

人及終身教育学会『2006年東亜地区高齢社会教育対策研討会論文集』, 2006年11月, pp.83-100

#### <論文(共著・日本語)>

「自治体改革における分権型社会構築の課題・方向と生涯学習—豊田市「分権型社会における地域力向上調査」報告—」, 『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』第53巻第2号, 2007年3月, pp.163-208(松浦崇・上田孝典・古里貴士・鈴木希望・水野真由美と共著, 担当部分 pp.163-166, pp.189-204)

「地方自治制度の再編と生涯学習の課題—豊田市合併町村地区交流館施設調査報告—」, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属生涯学習・キャリア教育研究センター『生涯学習・キャリア教育研究』第3号, 2007年3月, pp.39-63(松浦崇・上田孝典・古里貴士・水野真由美・鈴木希望と共著, 担当部分 pp.51-58, pp.60-63)

#### <その他>

「こころをいじる政治, 壊される子ども・若者—『社会教育研究年報』創刊30周年を迎えて—」, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科社会・生涯教育学研究室『社会教育研究年報』第21号, 2007年3月, pp.1-17

「社会変動と教育の変容そしてコミュニティ教育の展開—中国と台湾の事例—」, 日本教育学会『教育学研究』第74巻第1号, 2007年3月, pp.68-72

「企業人であり, 地域人であること—3年目の「あいち生涯学習 NPO 委員会」とこれから—」, あいち生涯学習 NPO 委員会『平成18年度文部科学省生涯学習分野における NPO 支援事業「ニューライフ NPO セミナー」報告書』, 2007年3月, pp.61-62

「多様なアクターがよりよい社会づくりのために—「はじめに」に代えて—」, あいち生涯学習 NPO 委員会『平成18年度文部科学省生涯学習分野における NPO 支援事業「ニューライフ NPO セミナー」報告書』, 2007年3月, 巻頭(頁番号なし)

「くるる5周年と私たちの2006年」, くるるコンサート実行委員会『くるる5周年記念 フォーラム&コンサート』, 2007年3月, pp.2-3

「青臈さの記憶—『教育論叢』第50号に寄せて—」, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻『教育論叢』編集委員会『教育論叢』第50号, 2007年3月, pp.1-2

#### <学会発表>

東亜少子高齢社会與東亜終身学習共同政策的構想」

(「東アジアの少子高齢社会と東アジア生涯学習共同政策の構想」) 中国国家教育部教育發展研究中心「21世紀初教育宏觀政策國際研討会」(「21世紀初頭教育マクロ政策國際セミナー」), 中国国家教育部國際會議場・民族飯店, 2006年10月18日—19日「東亜少子高齢社会和終身学習の任務」(「東アジアの少子高齢社会と生涯学習の果たすべき役割」) 中華民國成人及終身教育学会・台北市教育局主催, 中華民國教育部指導「2006年東亜地区高齢社会教育对策研討会」(2006年東アジア高齢社会対策シンポジウム), 2006年11月3日—4日, 中華民國国立台湾師範大学國際會議庁

影 浦 峽(准教授)

<論文(査読付)>

Youcef Bey, Kyo Kageura and Christian Boitet (2007) “Data management in QRLEX, an online aid system for volunteer translators,” *International Journal of Computational Linguistics and Chinese Language Processing*, vol.11, no.4, p.349-376.

Kyo Kageura (2006) “Towards the characterisation of the structure of terminologies: measuring the distance between Japanese terminology structures in different domains,” Sica, G. ed. *Open Problems in Linguistics and Lexicography*. Milano: Polimetrica. p.179-188.

海野敏, 影浦峽, 戸田慎一(2006)「近代の主体の成立と図書・図書館による近代の存立」『日本図書館情報学会誌』第52巻第4号. p.205-221.

影浦峽(2006)「日本語専門語彙の構成における外来語語基の位置づけ」『日本語の研究』(旧『国語学』)第2巻第4号(通巻227号). p.47-59.

<翻訳>

Ferdinand de Saussure. 影浦峽, 田中久美子共訳(2007)『ソシユール 一般言語学講義 コンスタンタンのノート』東京: 東京大学出版会.

<学会発表(査読付)>

Takaharu Takeda, Atsuhiko Takasu, Jun Adachi and Kyo Kageura (2006) “New event detection with time subtraction and co-occurring words,” *The 4th IASTED International Conference on Knowledge Sharing and Collaborative Engineering*. St. Thomas, US Virgin Islands, 29 November-1 December 2006. p.26-33.

鈴木崇史, 影浦峽(2006)「時代による総理大臣演説

の文体的変化」『人文科学とコンピュータシンポジウム』, 2006年12月14-15日, 同志社大学. p.145-152.

<学会発表(査読無)>

影浦峽, 阿辺川武(2007)「翻訳者の類型と翻訳作業の諸相」言語処理学会第13回年次大会, p.392-395.

竹内孔一, 金平昂, 平尾一樹, 阿辺川武, 影浦峽(2007)「置換・挿入を考慮した異形イデオム検索システムの構築」言語処理学会第13回年次大会, p.396-399.

外池昌嗣, 宇津呂武仁, 影浦峽, 佐藤理史, 阿辺川武(2007)「ウェブを用いた専門用語翻訳支援における多様な情報源からの信頼度情報の提示」言語処理学会第13回年次大会, p.400-403.

阿辺川武, 影浦峽(2007)「下訳と修正訳を用いた訳文修正パターンの発見」言語処理学会第13回年次大会, p.919-922.

阿辺川武, 影浦峽(2007)「QRedit: 英日ボランティア翻訳者向け統合エディタ」言語処理学会第13回年次大会, p.1058-1061.

Kyo Kageura, Takashi Kanehira, Kazuki Hirao, Miwa Toyoshima, Takeshi Abekawa and Koichi Takeuchi (2006) “An enhanced automatic look-up of English idiom entries in dictionaries based on the analysis of idiom variations,” *The Sixth China-Japan Conference for Research Cooperation in NLP*, Nov 13-15, Shanghai.

小山照夫, 影浦峽, 竹内孔一(2006)「日本語専門分野テキスト・コーパスからの複合語用語抽出」情報処理学会自然言語処理研究会, 2006年11月22-23日, 鹿児島大学.

<その他>

影浦峽(2007)「英語学習熱と教育基本法『改正』のバソロジー」『情況』2007年1/2月号, p.216-218.

影浦峽(2006/10/31)「青春の一冊」東京大学新聞.

鈴木 眞 理(准教授)

<著書>

『学ばないこと・学ぶこと—とまれ・生涯学習のススメ』学文社2006年12月

三 浦 太 郎(助教)

<報告書の一部>

三浦太郎「米国の図書館史に関する研究動向」『米国の図書館事情に関する調査研究報告書』社団法人

システム科学研究所, 2007.3, p.449-451.

<学会発表>

三浦太郎, 松原貴幸, ジェームズ・ピルグリム, 桂まに子「日本の公立図書館ホームページにおける多言語情報の提供について: 公立博物館ホームページとの比較から」日本図書館情報学会第55回研究大会, 2006.10.21, 九州女子大学.

<その他>

「図書紹介 岡本真『これからホームページをつくる研究者のために』』『情報管理』vol.49, no.8, 2006.11, p.472.

身体教育学コース

衛藤 隆(教授)

<論文>

「Safety Promotion の概念とその地域展開」『東京大学大学院教育学研究科紀要』46: 331-337, 2007年3月

「視力の実態と学習能率の関連—中学3年生の場合—」高橋ひとみと共著『桃山学院大学人間科学』32: 53-80, 2006年11月

「近見視力と学習能率の関連(I)」高橋ひとみと共著『東京大学大学院教育学研究科紀要』46: 347-357, 2007年3月

<学会発表>

「学童保育に関する一考察—学童保育に—」高橋ひとみらと共同発表, 第65回日本公衆衛生学会, 2006.10.25-27, 富山市

「文部科学省「児童生徒の心の健康と生活習慣に関する調査」の2次分析」永井大樹らと共同発表, 第53回日本学校保健学会, 2006.11.11-12, 高松市

「視力と学習能率に関する一考察(第1報)」高橋ひとみらと共同発表, 第53回日本学校保健学会, 2006.11.11-12, 高松市

<講演>

「セーフティプロモーションの考え方」第53回日本小児保健学会, プレコングレスセッション(公開市民講座)公開シンポジウム, 2006.10.26, 甲府市

「生涯を通じて健康の保持増進をめざす疾病予防と保健管理の進め方—保健管理に活かすヘルスプロモーションの考え方—」第56回全国学校保健研究大会, 第6課題講義, 2006.11.10, 松江市

「セーフティプロモーションと学校保健」第53回日本学校保健学会, シンポジウムⅡ基調講演, 2006.11.11, 高松市

「健康教育の最近の動向—海外で進む健康推進学校の理念と実践—」平成18年度学校医講習会, 2007.2.24, 日本医師会館

<その他>

(総説)

「健診の満足度に関連する要因—子育て支援に着目して—」鈴木美枝子と共著『チャイルドヘルス』10(2):50-55, 2007年2月

「腹痛」『小児疾患の診断治療基準 第3版』小児内科, 38(増刊): 75-76, 2006年11月

「学校健康診断における近見視力検査の意義について」高橋ひとみと共著『日本医事新報』No.4325: 81-84, 2007年3月

「第1回アジア太平洋地区健康促進学校国際会議に参加して」草川剛人と共著『東大附属論集』第50号, pp.3-20, 2007年3月

(会議報告)

「Create School Health Policy in Japan」Panel Discussion Section(1): School Health Policies, The First Asia-Pacific International Conference on Health Promoting School. November 12-17, 2006, National Taiwan University Hospital International Convention Center, Room 401, Taipei, Taiwan.

「Dietary Control and Hygienic Practices, Sedentary Life Style and Physical Condition」International School's Experiences Sharing, The First Asia-Pacific International Conference on Health Promoting School. November 12-17, 2006, National Taiwan University Hospital International Convention Center, Room 401, Taipei, Taiwan.

(翻訳)

「義理の父親に陰部を触られたことにより, 排尿痛を起こした6歳の女兒」衛藤義勝総監訳, 衛藤隆(翻訳), 別所文雄(監訳)『PBLに基づく小児科学症例テキスト』pp.244-246, エルゼビア・ジャパン, 2006年11月

武藤 芳照(教授)

<編著書>

『腰痛の運動・生活ガイド』(第4版)(菊地臣一らと共編), 日本医事新報社, 東京2007.3

<論文>

「実力ゲンとUP講座 もう転ばない, 転ばせない, 高齢者最新転倒予防法」(太田美穂らと共著), 三輪書店; 地域リハビリテーション vol.1 No.7;

596-600,2006

「Effects of unipedal standing balance exercise on the prevention of falls and hip fracture among clinically defined high-risk elderly individuals: a randomized controlled trial」(K. Sakamoto, Yoshiteru Muto et al.), *J Orthop Sci.* vol.11, No.5, 467-472, 2006

「転倒・筋力にかかわる最新の話題」(奥泉宏康と共著), メディカルレビュー社; THE BONE vol.20 No.20; 95-100, 2006

「運動器リハビリテーションとバイオメカニクス 運動器リハビリテーションへのバイオメカニクスの応用」(小松泰喜, 太田美穂らと共著), 運動器リハビリテーション学会; 運動・物理療法 vol.17, No.4; 317-321, 2006

「転倒・転落リスクを取り除くには—患者, 周辺環境, 看護師へのアプローチ—(小松泰喜らと共著), メディカルフレンド社 vol.53. No.2; 119-124, 2007

「健康を支える水」(太田美穂らと共著), 国立保健医療科学院; 保健医療科学 vol.56 No.1; 2-8, 2007

<学会発表他>

「認知症高齢者の転倒・骨折の実態とその予防に関する研究」第14回ニッセイ財団高齢社会ワークショップ高齢社会実践的研究助成報告, ニッセイ財団, 2006年11月, 大阪

「野球肘ゼロをめざして—野球肘発生要因と予防対策」第19回日本肘関節学会, 2007年2月, 神戸

<学術講演等>

「運動器の10年—スポーツ障害と健康」日本理学療法士協会全国学術研修大会, 2006年10月, 長崎県

「健康・スポーツ医学の実践と教育—運動器の10年—運動推進をめざして」第13回日本医師会認定健康スポーツ医制度研修会, 2006年10月, 北海道

「年齢に応じた健康・体力づくりの仕方と注意—子どものスポーツ障害予防から高齢者の転倒・骨折寝たきり予防まで—」, 第22回北陸東海理学療法学会, 2006年10月, 静岡県

「学校医による健康教育の実践—運動器の検診体制の整備・充実を」特別発言, 第37回(平成18年度)全国学校保健・学校医大会, 2006年11月, 島根県

「子どものスポーツ障害の予防—学校における運動検診の整備・充実を目指して—」, 群馬県医師会, 2007年3月, 群馬県

「高齢者の転倒・骨折・介護予防」山口県介護福祉会,

2007年3月, 山口

山本義春(教授)

<論文>

Ogata, H., K. Tokuyama, S. Nagasaka, A. Ando, I. Kusaka, N. Sato, A. Goto, S. Ishibashi, K. Kiyono, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Long-range correlated glucose fluctuations in diabetes. *Methods of Information in Medicine* 46: 222-226, 2007.

Aoyagi, N., Z. R. Struzik, K. Kiyono, and Y. Yamamoto. Autonomic imbalance induced breakdown of long-range dependence in healthy heart rate. *Methods of Information in Medicine* 46: 174-178, 2007.

Struzik, Z. R., K. Yoshiuchi, M. Sone, T. Ishikawa, H. Kikuchi, H. Kumano, T. Watsuji, B. H. Natelson, and Y. Yamamoto. "Mobile Nurse" platform for ubiquitous medicine. *Methods of Information in Medicine* 46: 130-134, 2007.

Kitajo, K., K. Yamanaka, L. M. Ward, and Y. Yamamoto. Stochastic resonance in attention control. *Europhysics Letters* 76: 1029-1035, 2006.

Ogata, H., K. Tokuyama, S. Nagasaka, A. Ando, I. Kusaka, N. Sato, A. Goto, S. Ishibashi, K. Kiyono, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Long-range negative correlation of glucose dynamics in humans and its breakdown in diabetes mellitus. *American Journal of Physiology, Regulatory, Integrative, and Comparative Physiology* 291: R1638-R1643, 2006.

Kikuchi, H., K. Yoshiuchi, N. Miyasaka, K. Ohashi, Y. Yamamoto, H. Kumano, T. Kuboki, and A. Akabayashi. Reliability of recalled self-report on headache intensity: investigation using ecological momentary assessment technique. *Cephalalgia* 26: 1335-1343, 2006.

東郷史治, Benjamin H. Natelson, 山本義春. 慢性疲労を運動で改善する. *精神科* 9: 413-417, 2006.

吉内一浩, 中原理佳, 熊野宏昭, 山本義春, 久保木富房. Ecological Momentary Assessment: 日常生活下でのリアルタイム モニタリング. *精神経誌* 108: 365-368, 2006.

<招待講演・シンポジウム講演>

山本義春, 相馬りか, 郭伸. ノイズと神経系の相互作用を利用した神経疾患の治療戦略—前庭ノイズ電流刺激を中心に—. 第52回日本宇宙航空環境

医学会大会・シンポジウム「内耳前庭系と循環調節」, 米子, 2006年11月.

多賀 巖太郎(准教授)

<総説>

多賀巖太郎: 赤ちゃんの脳はどのように発達するか, 岩波, 科学, 77: 292-298, 2007

<学会発表・講演>

多賀巖太郎: 乳児の運動発達について, 第65回めまい平衡医学会, 東京, 2006.11.16(招待)

多賀巖太郎: 感覚の初期発達, 第7回日立中研・基礎研合同研究会, 東京, 2006.11.24(招待)

渡辺はま, 保前文高, 中野珠実, 浅川佳代, 多賀巖太郎: 乳児の視聴覚に関連する皮質活動の機能分化. 第6回日本赤ちゃん学会, 福井, 2006.11.

多賀巖太郎: 赤ちゃんの脳のはたらきとしくみ, JST/CREST 第二回公開シンポジウム, 東京, 2006.12.9

多賀巖太郎: 光で探る乳児の心の発達, いのちの科学フォーラム, 京都, 2007.1.13(招待)

多賀巖太郎: 知覚の初期発達, 統数研研究会動的システムの情報論6, 東京, 2007.2.8(招待)

多賀巖太郎: 赤ちゃんの脳の発達の不思議, 脳を育むシリーズ講演会, 大阪, 2007.3.10

野崎 大地(助教授)

<論文>

Nozaki D., Kurtzer I., Scott SH. Limited transfer of learning between unimanual and bimanual skills within the same limb. *Nature Neuroscience* 9:1364-1366, 2006

野崎大地. 直立姿勢時の下腿三頭筋の活動動態を予測する. *信学技報*106(330):13-16, 2006

<学会抄録>

Nozaki D., Kurtzer I., Scott SH. To learn with one limb or two: Limited transfer between unimanual and bimanual skills. *Neuroscience Research* 55: S124, 2006

野崎大地. 腕を動かす脳内過程: 片手運動と両手運動の違い. 第6回計測自動制御学会制御部門大会論文集461-462, 2006

<学会発表>

Nozaki D., Kurtzer I., Scott SH. Limited transfer with the same limb between unimanual and bimanual skills. The 35th Annual Meeting of Society for

Neuroscience, Atlanta, USA, 2006.10.16

<招待講演等>

野崎大地. 両腕運動と片腕運動: 同じ腕の運動学習に関わる脳内過程の違い. 平成18年度生理学研究所研究会「高次脳機能研究の新展開」, 岡崎, 2007.1.17

野崎大地. 腕を動かす脳内過程: 片手運動と両手運動の違い. NTTコミュニケーション科学基礎研究所, 厚木, 2006.11.16

宮崎 りか(助教)

<論文>

山本義春, 相馬りか: 生理調節の複合性・可塑性と制御医療への展望. *計測と制御*. 46(7)571-575, 2007.

山中 健太郎(助教)

<論文>

Kitajo K. Yamanaka K. Ward LM. Yamamoto Y. Stochastic resonance in attention control. *Europhysics Letters*, 76: 1029-1035, 2006

武田祐輔 山中健太郎 山本義春 単純反応時間課題中の脳波から同定された刺激関連成分, 反応関連成分と聴覚誘発電位, 運動関連電位の比較. 第21回 生体・生理工学シンポジウム論文集, 601-602, 2006

<学会発表>

Takeda Y. Yamanaka K. Yamamoto Y. Identification of stimulus-related and response-related components from single-channel surface EEG records during simple reaction time task. Society for Neuroscience 36th Annual Meeting, October 14-18, 2006, Atlanta, Georgia, USA

Iizuka T. Yamanaka K. Yamamoto Y. Theta-band EEG activity and performance monitoring during continuous Stroop task. Society for Neuroscience 36th Annual Meeting, October 14-18, 2006, Atlanta, Georgia, USA

山本 清(教授)

<著書>

“Budgeting, Accounting and Evaluation in the Public Sector: Integration, Linking or Bridging Among the Three?” in E.Lande and J-C. Scheid(eds.). *Accounting Reform in the Public Sector: Mimicry,*

and Necessit 単著 2006.12. Expert Comptable Media

<和文論文>

- 「随意契約をいかに改革するか」 単著 2007.3  
『都市問題』Vol.98, No.3
- 「高等教育機関のアカウントビリテイとガバナンス」  
単著 2007.3. 『大学論集』第38集
- 「国立大学法人の財務管理」 単著 2007.3. 『国立  
大学法人の財務・経営に関する総合的研究』科学  
研究費補助金基盤研究(A)最終報告書(研究代表  
者：天野郁夫)
- 「資金配分と大学の戦略」 単著 2007.3. 同上

教職開発コース

佐藤 学(教授)

<著書・共編著>

Claude Levi Alvares et Manabu Sato, eds, Enseignants  
et Ecoles au Japon ; Acteurs, Systeme et Contexte,  
Maisonneuve & Larose, 2007 Mars. 206p.

<著書・分担執筆>

- 「対論・教育基本法『改正』がもたらす危機(姜尚中・  
佐藤学)」(辻井喬・藤田英典・喜多明人編『なぜ変  
える?・教育基本法』岩波書店 2006年10月  
pp.27-59.)
- 「格差社会の中の教育」(神野直彦・宮本太郎編『脱  
「格差社会」への戦略』岩波書店 2006年12月  
pp.145-156.)
- 「アメリカ教育学会(AERA)との太い架け橋」(波多  
野梗子・井口博充編『学びを楽しむ-波多野誼余  
夫追悼・業績集』岩波出版サービスセンター  
2007年1月 pp.132-134.)

Introduction ; Les Enseignants Japonais dans une  
Periode Charniere, Claude Levi Alvares et Manabu  
Sato, eds, Enseignants et Ecoles au Japon ; Acteur  
s, Systeme et Contexte, Maisonneuve & Larose. 21-  
44. 2007 Mars.

La Reforme des Cours ; Les Enseignants dans la  
Classe, Claude Levi Alvares et Manabu Sato, eds,  
Enseignants et Ecoles au Japon ; Acteurs, Systeme  
et Contexte, Maisonneuve & Larose, 75-92. 2007  
Mars.

<雑誌論文>

「漂流する『世界都市』東京-教育政策」(『世界』2006  
年10月号 岩波書店 pp.145-150.

<エッセイ・その他>

- 「宙づりにされた戦後民主主義—教育基本法『改正』  
の現局面」(『教育評論』2006年10月 pp.16-19)
- 「『心の管理社会』化進む」(『毎日新聞』2006年11月4日)
- 「戦後の社会規範壊す」(共同通信・全国地方新聞  
2006年11月8日)
- 「巻頭言・体育における技能の学び」(『体育科教育』  
2007年2月号 大修館書店 p.9.)

<講演・シンポジウム>

- 「21世紀高度知識社会の人材養成と教育改革の課題」  
(基調講演・近畿大学経営学部キャリア・マネジ  
メント学科新設記念シンポジウム 2006年10月15  
日)
- 「私の教育研究, これまでとこれから=学校改革を  
支える教育学研究」(招待講演, 大阪大学人間科学  
研究科 2006年11月12日)

Ranking Game in the East Asian Style of Education:  
Ironies and Dilemmas of School Policies in Global  
Age. Invited Speech, The 7<sup>th</sup> International Confer-  
ence on Educational Rsearch, Seoul National Uni-  
versity, Korea, November 20-21. Korea

「人文社会科学の危機を超えて」(日本学術会議・開  
催学院大学共催シンポジウム「人文社会科学の役  
割と責任を問う」 阪急インターナショナルホテ  
ル 2006年12月16日)

「私の教育研究—学校改革の哲学を求めて」(招待講  
演, 慶應義塾大学文学部, 2006年12月22日)

Teachers Dilemmas in School Policies for Key  
Competences in Japan, International Symposium by  
Seoul National University and University of Tokyo.  
Seoul National University, Korea, March 20, 2007.

学校開発政策コース

小川 正人(教授)

<著書・論文・報告書>

- ・『解説 教育六法 2007年度版』(三省堂 2007年3  
月)全1220頁
- ・「教育政策決定の過程=構造の変化と教育改革」  
(『季刊 家計経済研究』73号 家計経済研究所  
2007年冬季号)42頁~49頁
- ・「教員給与改革の課題と教員勤務実態調査の意義」  
(平成18年度文部科学省委託調査研究報告書『教員  
勤務実態調査報告書(小・中学校)』 2007年3月)  
9頁~17頁
- ・「教員給与改革の動向と検討課題」(『教育行政学論  
叢』第26号 東京大学大学院・学校開発政策コー



ス 2007年3月)105頁～111頁

- ・「市区町村の教職員人事等に関する実態調査報告」(同上)171頁～212頁
- ・「これからの教育委員会の役割と在り方—中教審・地教行法改正に関連して—」(『教育展望』教育調査研究所 2007年4月号) 12頁～19頁

#### <雑誌論文・その他>

- ・「教員給与改革(1)」(『悠』ぎょうせい 2006年11月号)
- ・「教員給与改革(2)」(『悠』ぎょうせい 2006年12月号)
- ・「教員給与改革(3)」(『悠』ぎょうせい 2007年1月号)
- ・「教員給与改革(4)」(『悠』ぎょうせい 2007年2月号)
- ・「教員給与改革(5)」(『悠』ぎょうせい 2007年3月号)
- ・「地方分権時代における教育委員会制度の在り方と課題」(『平成18年度 教委連研究集録』石川県市町教育委員会連合会 2007年3月) 3頁～17頁
- ・解説「国と地方の役割—財源保障制度の構築が鍵/教育基本法改正案国会審議の論点・期待」(『日本教育新聞』2006年10月23日号)
- ・解説「中教審・教員給与改革」(『日本教育新聞』2007年3月号)
- ・「三者三論/教育委員会は必要? 首長と教委連携し責任持て」(『朝日新聞』2006年11月9日)
- ・論説「教育委員会改革」(共同通信配信記事 2006年11月～12月)

勝野正章(准教授)

#### <分担執筆>

田中孝彦・世取山洋介編著『安倍流「教育改革」で教育はどうなる』大月書店, 2007年2月, 「参加・共同と公共性 問われる教職員の専門性」pp.117～121

#### <雑誌論文>

- 「国家の被用者たらしめる教師の更新制度」建築ジャーナル, 1110号, 2006年10月, p.51
- 「書評 八尾坂修編著『教員人事評価と職能開発 日本と諸外国の研究』」日本教育行政学会年報32, 2006年10月, pp.220-223
- 「免許更新制はかえって教員の画一化を進め, 公共的責任を衰弱させる」日本の論点2007, 2006年11月, pp.606-609
- 「教員免許更新制・信頼・専門職の公共的責任と自律性」学校運営, 545号, 2006年12月, pp.6-12
- 「教師の魂の統治を超えて」教育, No.732, 2007年12月, pp.4-11
- 「学校づくりにおける事務職員の役割」学校事務,

545号, 2007年1月, pp.26-30

- 「新しい教員評価は教職の専門性向上につながるか」学校運営, 547号, 2007年2月, pp.6-11
- 「イギリス教育改革における家族・コミュニティ」教育, No.735, 2007年3月, pp.62-69

#### <会議報告>

- School Restructuring and Teacher Competency: beyond targets and performance Cultures, *The 7th International Conference on Education Research, Competency, Human Learning & Technology*, Seoul National University, Korea., 2006年11月, pp.589-618
- School Evaluation: Policy Intension and Practical Appropriation, 2007 International Conference, Competency-based Education Reform, Hosted by Brain Korea 21, Academic Leadership Institute for Competency-based Education, Seoul National University., 2007年3月, pp.163-181.

教育測定・カリキュラム開発講座

渡部 洋(客員教授)

#### <発表>

- 張一平・渡部洋 「確信度テスト法とその連続型項目反応モデル」CRET—中国教育部基礎教育課程教材発展中心研究交流会 2007年1月

林 浩 司(客員教員)

#### <分担執筆>

- 「協調する楽器と身体—ヴァイオリン奏者とヴィブラートの創発—」佐々木正人編『アート/表現する身体 アフォーダンスの現場』東京大学出版会, pp.122-151, 2006.

#### <論文>

- 古山宣洋・野邊修一・染谷泰正・関根和生・鈴木美緒・林浩司: 「同時通訳者の身振りに関する研究(その2) 訓練生による英日同時通訳に関する事例研究」通訳研究第6号, pp.99-112, 2006.(査読有)

#### <学会発表>

- 古山宣洋・野邊修一・染谷泰正・関根和生・鈴木美緒・林浩司: Simultaneous Interpreter Gestures: Do they change as the trainee acquires the skill of simultaneous interpretation? 日本通訳学会第7回年次大会, 2006.

#### <報告書>

- 古山宣洋・野邊修一・染谷泰正・林浩司・関根和生・

鈴木美緒：「同時通訳における通訳遂行と身体動作の協調に関する研究」科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書，平成19年3月。

張 一 平(客員教員)

<著書>

張一平 「確信度テスト法と項目反応理論～新たなモデルと実践的応用」 東京大学出版会 2007年1月

<発表>

張一平・渡部洋 「確信度テスト法とその連続型項目反応モデル」 CRET—中国教育部基礎教育課程教材発展中心研究交流会 2007年1月

張一平「確信度テスト法と項目反応理論」 東京大学大学院教育学研究科 教育測定・カリキュラム開発(ベネッセコーポレーション)講座公開研究会 2007年2月

学校教育高度化センター(教育研究創発機構)

藤 井 康 之(助教)

<研究論文>

本多佐保美・藤井康之・佐藤香織「昭和10年代の東京高等師範学校附属小学校・国民学校の音楽授業構成—井上武士・小林つやえの授業実践から見る—」『千葉大学教育学部紀要』第55巻，2007年2月，43-51頁。

<学会発表>

西島央・今川恭子・佐藤香織・藤井康之・藤波ゆかり・本多佐保美「ポスター発表：学校文書にみる昭和10年代の音楽教育の諸相—長野県内の地域間比較を通して—」日本音楽教育学会第37回大会(千葉大学)，2006年10月28日。

土方苑子・池田雅則・小野方資・藤井康之・吉田昌弘「コロキウム：各種学校の歴史的意義」教育史学会第51回大会(四国学院大学)，2007年9月23日。